



## こんな時だからこそ、地域のために!

宮古・釜石・けせんコープでは、多くのコープリーダー・こ～ぷ委員さんも被災しました。しかし「こんな時だからこそ地域のために」と、3か月後の6月にはコープ総代会を開催。35こ～ぷ委員会中34委員会が活動を再開し、地域の組合員の要望に沿ってさまざまな活動をすすめました。

### イベントで 地域に元気と笑顔を

久慈・宮古・釜石・けせんコープでは、「地域を元気にしたい」と、「復興フェスタ」や「生協まつり」を開催。2011年度は、7月の「釜石・大槌復興フェスタ」を皮切りに、けせん生協まつり、釜石生協まつり、久慈生協まつり、宮古コープ復興まつり、大槌生協市を開催し、1万8千人の来場がありました。2012年度も、久慈・釜石・けせんコープでの「生協まつり」と、「宮古復興まつり」に1万4千人が参加し、楽しみました。



2011年けせんコープ生協まつり。豚汁お振る舞いに長蛇の列。

### 映画会やコンサート を開催

芸術・文化にふれてリフレッシュしてもらおうという企画にも取り組みました。2011年度は、5~8月にみやこ映画生協と協力し、避難所や地域で「子ども映画会」を開催したほか、釜石コープでは親子映画ツアーを実施（合わせて約800人参加）。また、けせんコープ主催「南こうせつコンサート」（日本生協連の支援、約1,000人参加）や、民謡コンサート（宮古・けせんで計4回、約900人参加）にも取り組み、大好評でした。宮古での「森山良



2011年、大船渡リアスホールでの「南こうせつコンサート」。

子ふれあいコンサート」（1,500人参加）への協力も行いました。

2012年度も、仙台フィルハーモニー管弦楽団のご厚意による「木管五重奏と歌のコンサート」（マリンコープドラ内）、けせんコープ主催「二胡などの弦楽とピアノのコンサート」（410人参加）、IBC「民謡まわり舞台」（1,120人参加）への特別協賛などを行い、楽しいひとときを過ごしていただきました。



2012年2月、山田町での民謡コンサート。



2013年1月、二胡などの弦楽とピアノのコンサート。

## 被災地からのリフレッシュツアー

「被災地を離れてリフレッシュしてもらおう」と、宮古・釜石・けせんコープが「リフレッシュツアー」を企画。内陸の生協店舗での買い物と観光をかねたバスツアーや、温泉へのバスツアーなど、これまでに27企画が実施され、858人が参加しました。組合員の募金からの「復興支援基金」を活用し支援しています。



釜石コープ大槌こ～ぶ委員会主催の「大迫お雑さまめぐり」に93人が参加。

## 内陸からの被災地応援ツアー

「被災地でお買い物や食事をすることで、復興を応援しよう」「被災地の状況を知り、これから支援につなげよう」と、内陸部の12コープは被災地へのバスツアーを企画・実施してきました。これまで27企画に787人が参加。「震災の傷跡に、今さらながら驚き呆然としました」「まだまだ復旧していないんですね」「自分にどんな支援ができるか考え、やっていきたい」などの感想が出されました。



北上コープのけせん地域へのバスツアー。



釜石コープ平田こ～ぶ委員会主催の「猊鼻渓川下り＆コープ一関コルザでのお買い物ツアー」



盛岡北コープの宮古へのバスツアー

## グループ活動補助

被災地や内陸に避難された方が5人以上集まってのサークル活動や、お茶飲みなどの費用を補助。みんなで集まっておしゃべりしたり、何か活動することが、気晴らしや生きがいづくりにつながればと、「復興支援基金」を活用した制度です。これまで36グループに合計217万円を補助しました。



- 代表者は組合員に限りますが、ほかのメンバーは非組合員でもOK。
- 材料・会場費として、1回につき3,000円を上限に補助。1か月4回まで。
- 2013年度も継続。

## いつもにぎやかで最高の場所です

毎日、午前9時過ぎから午後3時ころまで6人で談話室に集まり、お手玉やひざ掛け、バッグ、鍋カバーなどを作っています。笑ったり、仕事したり、話したりと、いつもにぎやかで最高の場所。仮設住宅は狭いから息が詰まっちゃうので、気分転換にもなっています。この活動の補助はもちろん、移動店舗「にこちゃん号」も週3回来てくれるので、生協にはすごく助けられています。

(宮古市 長洞辰子さん)



宮古市弘前仮設「いきいき教室」のみなさん。



田老町漁協青野瀬養殖組合のみなさん



2011年10月、田老漁協を励ます会で、組合員が「わかめ応援歌」を合唱。



## 商品を利用して復興を支援しよう!

沿岸部を襲った大津波は街を壊滅させ、主要産業である漁業・水産加工業をはじめ、小売などのサービス業にも甚大な被害をもたらしました。いわて生協は、産直提携先・アイコープ商品メーカーの被災地の生産者・メーカーを支援し、復興を応援する取り組みを、事業でも組合員活動でもすすめてきました。

### 被災した生産者・メーカーを支援

発災直後から被災状況の把握をすすめ、アイコープ商品メーカーや産直生産者 23社・団体へお見舞いを行ったほか、事業再開時の備品支援や、製造再開商品の供給促進に取り組んできました。「アイコープ焼肉のたれ」の八木澤商店（陸前高田市）、「コープ虹の宴」シリーズの赤武酒造（大槌町）、「アイコープ漬魚」の佐勇水産（石巻市）、「アイコープ産直真崎わかめ使用味付茎わかめ」の古須賀商店（宮古市）などを店舗や共同購入で積極的に紹介し、利用を広げました（2012年度は約 3.1 億円の供給に）。

また、夏季・冬季のギフトでは、沿岸被災地メーカー商品を取り扱い、積極的におすすめしました。



「アイコープ宮古水揚げのさんまでつくった上乾さんまみりん干」を、古須賀商店と共同開発（2012年度）。



佐勇水産に製造委託している「アイコープほっけみりん漬け」を、よりおいしく改善（2011年度）。震災前より大幅に利用が増えました。



「地産地消フェスタ」にも出店いただき、商品と復興へのがんばりをPRしました。

### 田老町漁協を支援、真崎わかめが復活

壊滅的な被害を受けた「産直アイコープ真崎わかめ」の田老町漁協への支援を継続してきました。組合員に呼びかけて軍手（軍手 5,300 双）・タオル（1万 5 千枚）の寄付、「産直真崎わかめ復興支援募金（田老町漁協にトラックを贈ろう！）」（209万円）に取り組みました。

また、2011年 10 月には「励ます会」、2012 年 3 月には「収穫を祝う会」を開催し、生産者・組合員がいっしょに真崎わかめの復活をお祝い。供給再開にあわせて、学習とレシピ普及により利用を呼びかけました。こうした取り組みにより、2012 年度の利用は震災前（2010 年度）を大きく上回りました（151%）。

## 「復興支援・地産地消フェスタ」開催

例年、一関・水沢・滝沢の大型店3店舗で開催している「地産地消フェスタ」。2011年・2012年は「復興支援」も掲げ、また、宮古マリンコープドラでも「復興まつり」として開催しました。岩手県（地方振興局）の協力も得て、これまでおつきあいのなかった生産者・メーカーにも出店いただき、出店者にも来場者にも喜ばれました。来場した約16万人の方々に、「被災地や岩手のものを食べて、岩手を元気に！」の思いを広げました。



復興支援団体や仮設住宅の商品など。グループ、福祉作業所の商品などを販売する。組合員がおすすめです。

## 「がんばろう！岩手・みんなで応援商品」

東日本大震災では、県内全域での停電や飼料工場の被災などにより、内陸部の酪農・畜産の生産者やメーカーも被災しました。放射能汚染の問題も深刻です。こうした生産者・メーカーを組合員活動でも応援。16のコープごとに「みんなで応援商品」を設定し、生産者と交流して震災の被害状況や商品のよさを改めて確認し、利用を広げる取り組みを行いました。



放射能と闘う酪農家を応援するため「がんばろう！岩手・みんなで応援商品」と呼びかけ。利用して支えましょう！」と呼びかけます。

2011年5月、ベルフ牧野林での「復興支援・地産地消フェスタ」



## マリンコープドラ内に「復興商店」常設

被災地メーカーの製造再開商品のお知らせと販売支援のため、マリンコープドラ内に「復興商店」を常設。スタート時には、沿岸12市町村から、水産メーカー6社、食品メーカー14社、福祉作業所8団体、住民グループや復興支援団体

14団体の商品を取り扱い。以降、復興したメーカー・団体の商品を随時、導入しています。



商品を通じた情報発信の場にもなっています。



### 「待ってたよ！」の声を励みに

古須賀商店（宮古市）代表  
古館 誠司さん

震災後、「アイコープ産直真崎わかめ使用味付茎わかめ」は原料がなく製造できませんでしたが、田老町漁協の

みなさんの团结とがんばり、加えて組合員のみなさんの支援で2012年4月に「アイコープ産直真崎わかめが復活。10月には「アイコープ産直真崎わかめ使用味付茎わかめ」の製造も再開できました。多くの組合員さんから「待ってたよ！」の声をいただき、とてもうれしかったです。



### 商品を利用して支えよう！

一関コープ代表  
千葉 由実子さん

私たち一関コープの組合員は、佐勇水産が製造しているアイコープ商品のひとつ「ほっけみりん漬け」の見直しに参加したり、アイコープ漬魚を「が

んばろう！岩手 みんなで応援商品」として年間を通して応援してきました。社長の佐藤由隆さんに何度もお会いするたびに、その表情が明るくなっている、復興に向かって歩んでいるのだと感じられ、とてもうれしかったです。みんなが笑顔になれるよう、私たちにできることは、商品を利用して支えることです。



## 「心もからだも温かく過ごしてほしい」

仮設住宅で初めて迎える冬、大切な家族を失ってのお正月、親がいない運動会…。「心もからだも、少しでも温かく過ごせるよう、何か支援ができるのか」と、全国の生協の協力も得て取り組みました。

### 温かい料理と ふれあいを届けよう！

「年末年始にひとりぼっちにしたくない」「温かいものを食べて、元気にすごしてもらいたい」と、コープ・ボランティアセンターの活動としてお振る舞いを実施。2011年末・2012年始には計5日間、陸前高田市の仮設住宅21か所で2,870食の「カニ汁」と「おせち料理」を提供。2012年は、クリスマスイブに「シチュー」と「クリスマスケーキ」などを、年末に「きりたんぽ汁」と「おせち料理」を、陸前高田市・大槌町の計22か所で計2,300食提供しました。

また、いずれもおおさかパルコープ、ならコープ、よどがわ市民生協から、組合員・職員がボランティア

参加（のべ250人）し、いっしょに活動しました。



仮設住宅のみなさんもボランティアと交流しながら準備を手伝ってくれました（陸前高田市竹駒小学校仮設）。



2011年末は、カニ汁と餅、なますをお振る舞い。

### クリスマスケーキを 共同購入で配達

「クリスマスケーキを買えるお店もなくなった…。共同購入で配達してもらえないか」との声をうけ、2011年、宮古・釜石・けせんセンターで配達を実施。注文いただいたケーキ965個に、プレゼントのクリスマスツーリングを添えてお届けし、喜ばれました。



釜石センターの班担当と組合員さん。



2011年、copeあいちから寄せられたクリスマスカードに、けせんcopeの組合員が作った折鶴を添えて、沿岸地域の組合員へプレゼント。

## 「いっしょにがんばろう」の思いをこめて

2011年の冬を迎え、「年賀状は出せないけれど、クリスマスカードなら贈れる。忘れないで見守ってくれている人たちがいることを伝えたい」と、けせんcopeが企画し、けせん地域を重点的に支援してくれているcopeあいちに依頼。組合員さん手作りのクリスマスカード5,536枚が寄せられ、沿岸地域の共同購入利用組合員を中心にお届けしました。

その後も、いわて生協として「ひなまつり」「七夕」「クリスマス」には手作りカードを贈る取り組みを実施。全国の生協にも協力いただき、計1万6千枚のカードを被災地の共同購入利用組合員や、ふれあいサロン参加者にプレゼントしました。

### カードで励されました。

ひなまつりカードありがとうございました。とても温かい、優しい気持ちに包まれるような気分になりました。

被災からもうすぐ丸二年、再建できるものから一歩踏み出さなければと思い、元の場所に家を建て直し、1月末に仮設からわが家へ戻りました。いただいたカードは



2012年度は、組合員活動の中でもカードを作り。



共同購入配達時にお届けしました。



## 被災者招待企画も

文化鑑賞会クオレ例会への被災者招待(5回、162人)や、南昌荘でも被災者入園無料企画を5回行い170人の利用がありました。また、2012年の「南昌荘のひなまつり」では、手作りのひな人形を来園した被災者12人へプレゼントしました。



「津波でおひな様も流されてしまったので、このプレゼントはとてもうれしい」と、宮古から盛岡に避難してきた組合員さん。

## 灯油の利用を支援

「少しでも冬のくらしの支えになれば」と、プレゼント企画も用意して配達灯油の利用をおすすめしました。「遠野まごころネット」の支援灯油の配達も担いました。

支援内容	利用人数・数量
灯油ポリ缶2缶と給油ポンプ1個プレゼント(いわて生協で支援)	3,349人
灯油18ℓとポリ缶収納ケースプレゼント(cope東北サンネットで実施)	1,748人
遠野まごころネットの「支援灯油」への協力	大槌町と陸前高田市で計5,652ℓ(314缶)



「にこちゃん号」の周りには、その名の通り笑顔が広がっています。

## 買い物不便を解消し、 くらしを支えて

大震災から一年が経過しても、買い物の場がなく、毎日のくらしに必要な食料品や日用品を手に入れることが困難な状況は改善されませんでした。いわて生協は被災地のくらしを支える事業をすすめました。

### 移動店舗 「にこちゃん号」を運行

2012年6月、宮古市のベルフ西町を母店とする移動店舗「にこちゃん号」が運行をスタート。約600アイテム（6割が生鮮食品）の商品を積み込み、宮古市に点在する17か所（680戸）の仮設住宅を、2つのコースでそれぞれ週3回まわっています。また、10月からは2台目を大槌・釜石地域（仮設住宅17か所 1,000戸）で、11月からは3台目を陸前高田・大船渡地域（仮設住宅16か所 1,200戸）で運行。1台目は日本生協連の支援、2、3台目はいわて生協組合員の募金と全国の生協からの支援金で実現したものでした。

いずれも、コースは地元の組合員

や町内会長・自治会長さん、社会福祉協議会といっしょに検討し、設定しました。3台計で一日あたり250人、のべ3万9千人にご利用いただき、「来てくれてうれしい」と喜ばれています。

### 「にこちゃん号」で 助かっています！

- 週3回来てくれるの、本当に助かります。丸物の魚やお花が買えるのが、うれしいですね。
- お弁当やお惣菜、焼きたてパンも買えるのがいいね。店内にないものでも、お願いする次のとき持ってきてもらえるので便利です。
- 買い物に来て、みんなと会える。おしゃべりできるのも楽しみなんですよ。

### 無料お買い物バスも 運行

2012年7月からは、買い物不便地域と宮古市の2店舗（マリンコープドラとベルフ西町）を結ぶ「無料お買い物バス」もスタート。日本生協連からの支援金で運行しています。移動店舗では対応できない宮古市・山田町の仮設住宅64か所（2,078戸）を回り、「無料なのがうれしい」「車を持っていないので助かる」と喜ばれています。2013年3月までの9か月間でのべ4,425人のご利用がありました。





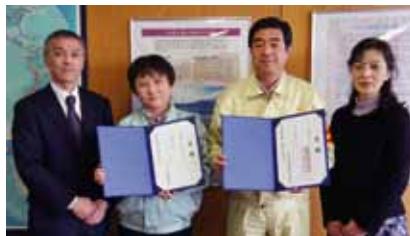
## さまざまな支援活動は組合員の募金で

2011年3月18日から取り組んできた「東日本大震災支援募金」。さまざまな支援活動の費用として活用してきました。また、目的別の募金にも取り組みました。

### 東日本大震災支援募金 5,687万1,153円

(2013年3月20日現在、  
日本生協連からの支援金も含む)

2,000万円を岩手県へ義援金として贈呈。残りを「復興支援基金」として支援活動に活用しています。



義援金2,000万円と日本生協連からの支援の避難所用冷蔵庫60台を岩手県へ贈呈(2011年5月)。

### 東日本大震災「復興支援基金」活用状況 (2013年3月20日まで)

ふれあいサロン、お茶っこ会	1,299万8,379円
CVCバスボランティア	607万9,811円
炊き出し	595万5,792円
グループ活動補助	217万 700円
生産者・メーカー支援	268万6,298円
被災地生協まつり・復興まつり	523万6,345円
文化企画・リフレッシュ企画	295万5,461円
支物支援・買い物物支援	647万1,269円
カードプレゼント・募金呼びかけ	265万1,566円
その他(販売支援など)	19万5,001円
計	4,740万 622円

### 産直真崎わかめ 復興支援募金 (田老町漁協へトラックを贈ろう! ) 209万4,218円

産直 38年の歴史がある田老町漁協へ、わかめ収穫・加工事業に必要なトラックを支援。この募金と東日本大震災「復興支援基金」からの198万7,054円を合わせて、トラックを購入(408万1,272円)し、2012年2月2日に田老町漁協へ贈呈しました。



### 移動店舗車両 購入支援募金 3,720万1,367円

被災地のお買い物を支援する移動店舗「にこちゃん号」。1台目の宮古地域だけでなく、ほかの地域にも走らせるため、2台目、3台目の購入支援募金を取り組みました。



2台目、3台目には支援いただいた生協・連合会名を表示。

### 移動店舗車両購入支援募金

全国の21生協・ 3団体からの支援	3,012万6,153円
いわて生協の 組合員募金	707万5,214円
計	3,720万1,367円

# たくさんの支援をいただきました。

発災直後の支援物資や炊き出しなどの緊急支援、いわて生協の事業再建のための共同購入利用者拡大、被災された方の心ケア支援など、たくさんの支援を全国の生協や団体、お取引先様からいただきました。

## 物資支援

全国の生協や団体から物資を支援いただき、岩手県へ納品したほか、直接避難所へ届けました。いわて生協への燃料支援もありました。



## 移動販売

2011年3月19日～4月2日の移動販売には、12生協112人の支援をいただきました。



## 共同購入仲間づくり

2011年6～8月、13生協25人に応援いただき、共同購入利用者を669人増やすことができました。



## 炊き出し

2011年3月19日～4月10日、豚汁やうどん、牛丼などの炊き出しに、6生協72人の支援をいただきました。



## 共済加入者訪問活動

2011年4月15日から40日間、21生協97人に応援いただき、個人宅・避難所4,751軒を訪問しました。



## ふれあいサロンお菓子

2012年5月より、ふれあいサロン用のお菓子を四国4県生協やコーピーしづおか、大阪いずみ市民生協などから支援いただきました。



## 震災対応のあり方について抜本的に見直し

震災対応のあり方について明らかになった問題点について、抜本的な改善をすすめました。

- 発電機の追加配備、予備燃料の配備（定期的にテスト稼動）
- 非常用通信機器（衛星電話、MCA無線機）の配備
- 安否確認システムの変更
- 津波警報発令時の行動基準の明確化
- 被災地域への先遣隊派遣や現地対策本部の設置
- 事業継続にむけた供給方法や商品送り込みの改善 など

## バイオディーゼル燃料が活躍

深刻な燃料不足となった中でも、本部（滝沢村）からトラックを走らせ、さまざまな支援ができたのは、バイオディーゼル燃料（BDF）があったから。組合員から集めた使用済み揚げ油を精製してつくったBDFや、他生協から届けられたBDFが活躍しました。

## 夜のお茶っこ会

日中の「ふれあいサロン」に参加できない方々のために、コープかながわ、コープとうきょうが「夜のお茶っこ会」「夕涼み会」を開催。また、おおさかパルコープが岩手県内の復興支援団体と企画した「夕涼み会と映画鑑賞会」に、大阪よどがわ市民生協、コープあいちなどの参加がありました。



## バスボランティア

おおさかパルコープ、大阪よどがわ市民生協、ならコープが合同で、年間を通じて陸前高田市へのバスボランティアを実施。お振る舞いなど、いわて生協と合同開催もありました。



## 生協まつり

2012年、釜石・けせんコープ生協まつりでは、おおさかパルコープに「おおさかたこ焼き」販売と手品やコーラス披露などを協力いただきました。釜石コープ生協まつりではコープひろしまの「広島焼き」振る舞い、宮古コープ復興まつりにはコープあいち・生協共立社の参加がありました。



## あったかの贈呈

いばらきコープの組合員さんの手編みの帽子やひざかけなど350点(2011年12月)、マフラーやひざかけ100点(2013年1月)が、宮古コープの組合員へ贈られました。



## 復興応援商品販売

仮設住宅などの住民グループや福祉作業所、復興支援団体など21団体の商品を全国の生協にも紹介。共同購入での取り扱いやイベントなどの販売でご協力いただきました。



## カードを贈る取り組み

●2011年クリスマスカード 5,536枚  
コープあいち

●2012年七夕カード 4,773枚  
(いわて生協含む)  
コープかながわ、コープあいち  
コープとうきょう、コープかがわ

●2012年クリスマスカード 5,784枚  
(いわて生協含む)  
コープとうきょう、コープかながわ、  
コープあいち、コープかがわ、  
コープしづおか、市民生協やまなし  
コープおきなわ

●2012年ひなまつりカード 4,059枚  
(いわて生協含む)  
コープかながわ、コープあいち、  
コープしづおか、市民生協やまなし、  
コープとうきょう、コープかがわ



## 県外での大地震発生時の支援に備えて

日本生協連や全国の生協からたくさんの支援をいただきました。いわて生協も、岩手県外で大地震が発生した際、直ちに支援活動に入れるよう、機材や備品の備蓄を行います。

燃料関係	炊き出し用器材
<ul style="list-style-type: none"> <li>●ガソリン200ℓ</li> <li>●軽油400ℓ</li> <li>●BDF</li> <li>●ガソリン用携行缶10缶</li> <li>●ドラム缶(200ℓ)5缶</li> <li>●ドラム缶用汲み上げ機(手動)2台</li> <li>●ドラム缶用汲み上げ機(電動)2台</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ガスコンロ5台</li> <li>●ガスボンベ5台</li> <li>●寸胴鍋(ふた付)5台</li> <li>●アルミ鍋5台</li> <li>●卓上カセットコンロ5台</li> <li>●割り箸1万本</li> <li>●紙コップ1万個</li> <li>●発泡スチロールどんぶり1万個</li> <li>●ごみ袋1,000枚</li> <li>●調理用手袋5,000組</li> <li>●レジヤー用テント10台</li> </ul>
発電機関係	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>●発電機3台</li> <li>●カセットボンベ</li> <li>●ドラムコード5台</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●リヤカー5台</li> <li>●二輪車12台</li> <li>●ブルーシート10枚</li> <li>●水用ポリ缶(18ℓ)30缶</li> <li>●簡易トイレ</li> </ul>



いわて生協のバスボランティアが継続して支援に入った、陸前高田市広田町天王前地区。



土の中からがれきを取り除き、整地して…。



花壇をつくり……。



グラウンドゴルフを楽しみ、花を楽しむことのできる広場ができました。



いわて生協は  
「被災地の生協」として、  
今後も常に被災地・  
被災者に寄り添い、  
協同の力で  
復興支援に取り組みます。